令和４年度春期　金沢シーサイドタウン地区推進連絡会
Ａグループ　記録

令和４年５月 28 日（土）13：00～14：50
場所：連合自治会館
記録：横浜市並木地域ケアプラザ

＜会長挨拶＞
　コロナは少し収まってきたが、活動に関する感染対策に変わりはないので、引き続いて実施していく。地域は個人化が進んでいるように感じる。テレワークや IT の活用により、外出しなくてもよくなっている。地域での住民同士の交流が少なくなる、子供の貧困など、課題が沢山ある。金沢ささえあいプランを支えにどのようにしたらいいのか考える。

＜金沢区長挨拶＞
　横浜市の人口減少、金沢区も同じである。シーサイドタウン地区は緑豊かで住みやすい地域。色々な世代に届くようにＳＮＳを活用し、情報発信をしていく必要性がある。

＜課　題＞
①　防災について
- 並木では地震に伴う津波を一番心配している。
- コロナ禍で防災訓練が出来ていない地域もある。
- 災害時もコロナ禍では、避難所が密になるため、収容できる人数が心配である。
- 防災拠点は物資を取りに行くだけで、過ごせるなら自宅が望ましいが、住民に防災の事を知らせるにも、どのような方法がよいのか課題である。
- コロナ禍で以前のように避難ができないため、自治体で検討が必要である。
- 防災を支える役員もみんな高齢者になってきている。
- 中学校では防災講座を行う予定である。防災訓練といえば、昔は「すぐグランドに集合」だったが、今は津波を想定して校舎 3 階に集合となっている。学校としても、避難訓練は真剣に取り組んでいる。災害時など中学生も大人ほどではないが、地域の役に立つ事が出来るので、もしもの時は中学生も地域活動に参加させて欲しい。

②　高齢者・自治会加入・家賃
- 街が作られた時に引っ越してきた世代が同時に高齢者となり、地域はとても高齢者が多い。子供だった世代は引っ越して近隣にいる方が多い。
- 介護保険で行き届かない部分を、地域のボランティアグループが支えてくれている。しかし、ボランティアグループも高齢化していて、高齢者が高齢者を支えているのが現状である。若いボランティアを増やすにはどうしたらいいのか課題。ボランティアがいなくても隣近所で助け合える地域が理想的である。
- 自治会の加入率が低い。
- 災害時や緊急な場合などはどのようにしたらよいのか、若い世代にも加入してもらって、地域活動に参加してもらうには、どのようにしたらよいのか課題。
- 頼れる人が近隣に居ない高齢者を民生委員が見守っているが、救急搬送に立ち会っても、問題が多い。例えば、救急で鍵を壊して入らないといけないのに、後に壊した鍵代金は誰が支払うのか。心配しているのに入院したのかどうか、その後を教えてもらえない。「個人情報の壁」があり困っている。

③　外国人の増加
- 外国人が増えてきた。今後ももっと増えるだろう。

- 外国人は地域に馴染めない人もいて、地域で生活をすると困っている事が多いと思われる。地域からのアプローチが必要ではないのか。
- 外国人が来られる地域の居場所や国際交流に力をいれている地域活動もあるので、広報があってもよいのではないか。外国人も自治会に加入してもらい、地域のルールなどを教えている自治会がある。一緒に参加していく事が大切。

＜その他＞

- 障害者の施設が地域にあるので、障害者との交流や災害時の受け入れなど、障害者についても話し合いをしたかった。
- 中学生の地域参加についての意見も多くあり。性教育を学校で行ってほしいと要望があった。
- あしたタウンプロジェクトの紹介があった。

令和４年度春期 金沢シーサイドタウン地区推進連絡会（Ｂグループ）

日 時：令和４年５月 28 日（土）13 時00 分～14 時50 分
場 所：さざなみ団地集会所

■意見交換（敬称省略）

・子どもを対象とする行事が若干少ないので、子どものためになるようなことを増やしたい
居住地域では年 4 回の子どものためのイベントを行っている（3/3、4/7、5/5、クリスマス）

・かつて並木中学校は 1000 人超の生徒がいたが、現在は 200 人程度。1，2 年生が柴町方面から通っている割合は 40%、全校的にも 30%程度。
・令和５～６年頃には、並木中学校は市内で一番小さな中学校となるかもしれない。

・幼い頃はサマーフェスタが好きでよく行った。出店も多かったが、20 代の頃に来た際、出店が少なくなっていた。昔はサッカーや野球のチームも多かったが、子どもが減り、人口も減少し、出店も減ったのではないかと思った。
・並木で生まれ、育ったので、並木に恩返しがしたく、清掃活動等をさせていただいている。
・国籍や性別関係なく出来る活動をしていきたいと思っており、青少年地域活動拠点をつくりたいと思っている。
・どんな人も住みやすい街に、その中心が並木だと思っている。

・子どもがこの地域から出て、親世代が残り人口減少になっている。並木 2 丁目も高齢化が進んでいると感じる。
・若い人にこの地域、入ってきてもらわないとますます高齢化が進む。
・並木は、住みやすい等々アピールをもっとする必要がある。
・各町・街区の公園や広場などを地域みんなで使えて、コミュニケーションをとれるようにしないと、若い世代が入ってこないのではないかと危惧している。
・各団地内の広場は、管理組合所有で、その団地の人しか使えない。幼稚園のこどもを先生が引率して遊ばそうと思っても、遊ばせにくいのではないか。みんなが普通に使えるようにしたい。
・並木以外から保育園や幼稚園に通っている人が多いが、将来並木に住みたいと思えるような街にしていくことが大切と思う。

・さざなみ団地では、毎週月曜日 8 時頃から公園内の砂場の掘り起しをされていることもあり、遊んでいる子どもの笑い声などが聞こえることをうれしく思っている。
・おひさま広場もきれいになって、利用率が高くなった。

・他の街から小学校に通っているが、ふなだまりでカルガモの親子を見たが、これまでテレビか本でしか見たことがなかった。見守りの会の方から、これがふなだまりの風物詩と教えてもらった。

・自然もあり、子育てがしやすいという声をよく聞く。
・5 年生とベイサイドマリーナからクルーズ船に乗せて頂き、金沢の海を廻った。本当に素敵な街だと思った。もっとこの街をアピールするべきだと思う。

・子ども会は自治会ごとにあるが、子どもが少なく、2 年から5 年に1 回役が回ってくるため、負担との声をよく聞く。

・3 丁目は子どものイベントは年に 1 回のクリスマス会のみと少ないため、1 丁目や2 丁目は活発で羨まし

い。
・この街は、車が通るところを通らずにいろいろな場所に行きやすい。
・金沢区は市内で 2 番目に高齢化率が高いと聞く。
・約 1400 世帯ある 3 丁目の新生児は、昨年は 3 人だった。
・若い人たちが入ってこないと、老人クラブのみになってしまう。
・民生委員で高齢者を訪問するも、コロナ禍で会えず、インターホンを鳴らしてもなかなか出ていただけない。
・地区社協イベントも少なくなったため、民生委員・児童委員が協力できるイベントや話し合う場もなくなっている。話をできる場所づくりが必要である。
・スポーツセンターで夜に子どもたちの宿題や面倒をみたり、市大でも大人の外国人の支援をしたりしている。
・教育委員会ともつながっているため、困っている外国の方がおられたら、相談してください。
・現在、外国につながる子ども 50 人程度、サポーター50 人程度いる。
・国別ではペルー、ベトナム、フィリピン、米国、中国、ブラジル、ジャマイカ等々。
・外国人の方が多い地域であるため、「金沢国際交流ラウンジニュース」を回覧板でも回してもいいと思うので、連合で話をしてみようと思う。
・子育てには良い環境とつくづく思う。
・最近は少しずつ若い人が増えて、子どもの声も聞くようになった。
・富岡団地は古く、エレベータも無いところも多いため、若い人はなかなか来ないと感じる。
・他区に比べ金沢区は人口減少のスピードが速い。
・第四期計画の内容も基礎的な数字を出し、ハード面のみならずソフト面も必要。
・コロナ禍でイベントをやるにはどのよう形でやるのがいいのか模索している。
・「お助け隊なみき」は並木全体のちょっとした困りごとを支援するが、最近ではボランティアとして、うけられる依頼／うけられない依頼の判断に苦慮している。要介護認定まではいかないような方、認定される前の方のようなグレーゾーン的な人からの支援依頼も多い。
お助け隊のメンバーも高齢であり担い手も少ない。
・お助け隊はシーサイドタウン全域を対象としているが、各街区毎にボランティアされている団体などあると思うので、お助け隊と連携してできないかと思っている。
・他の団地と同じくエレベータ問題につながるが、ゴミ出しや買い物も苦慮している。
・自身が感じていることは、1 丁目で受ける依頼が、2 丁目ではもう来ている、3 丁目では目の前に来ている依頼という感じである。
・1 丁目や2 丁目はケアプラザや地区センター、コミュニティハウスもあるが、3 丁目には人が集まることができる場所がない。検疫所跡を使えるように開放してほしいと切に思っている。

・地区社協としての今後の予定は、
7/30（土）花火（※7/31 は予備日）2 年間中止だったが、今のところやる方向。
グランドゴルフ大会は止め、モルックへ変更するよう社協の事務局とスポーツ推進委員で相談しており、今年度中にはやりたいと思っている。

・連合として敬老の集いなどの催し物はできないだろうと思っている。代替えを絆チームで、相談中である。

以上

【C グループ】

・大学は 10 年前から福祉的な集まり「あしたタウン」の取組を行ってる。一般社団法人として昨年立ち上げた。大学内での取組を区民と一緒に行いたい。
・シーサイドタウン地区は平地が多く、緑が多い印象がある。たくさんの人に住みやすい場所であることを知ってもらうために、地域ブランドの魅力を発信する情報発信力を向上していきたい。三井アウトレットなどの地元の企業ともコラボして実践していきたい。

・外国由来の方に地元の役立つ情報発信が必要（現在の金沢区の人材は多様）
・ウズベキスタン、中国などの国籍の方もおり、絵本を日本語で読み聞かせたり、並木地区の情報を英語などで伝えている。外国につながる様々な子どもが日本の保育園に預けられるようになってきた。

・団地の中には在宅酸素を使用している人もいる。災害発生時に電源が確保できるか不安に思う。発災時は自治会で持っている発電機の電源を融通してもらえないか相談したが、特定の人が電源を使用するのは難しいと言われた。何とかならないか。
⇒停電に備えて在宅酸素の業者に連絡を取り、家の中に予備の酸素を 5 本ぐらいは備蓄できるはず。業者に直接相談するとよい。また、最近では電気自動車の電源や自宅のソーラー電池を利用するなどの方法もあるようです。また、カセットガスを利用した発電機も商品として出回っているようです。
⇒自分の家にはいくつかの発電機があるので、必要な時は相談してほしい。
・並木地区の町並みは都市景観 100 選に選ばれている。自分としてはこの緑を守っていきたいと思うが、同じ土地に住む人の中には緑の好きな人ばかりではなく、緑を維持するためのコストの問題もあり「緑の問題」として認識している。

・地域の子どもは増えている印象がある。並木 1 丁目、鳥浜あたりは通学の子どもたちをよく見かけるようになった。
・新しい人が入ってくる反面、地域での立場が分かれつつある。うまく新旧の住民で協力し合えないか？世代間の差をどのように埋めるのかが課題。
・「子どもは地域で育てよう」という考えも様々な意見がある。関心の薄い人もいる。

・シーサイドタウン地区は南部市場のリニューアル、三井アウトレットがあることもあり観光地化してきており、外部から来る人の数が増加している。外部から来る人は自分の地元で

はないので軽い気持ちでポイ捨てをしていくようで、感情２号線が特に汚い。これは、地域の高齢化や障がい者福祉等の課題と同様に「新しいゴミ問題」としての新しい課題と思う。

・「これからの並木を考える会」に参加し、シーサイドタウン地区は高齢者も確かに多いが元気な高齢者も多いと感じた。平地であり買い物もしやすいなど、町の魅力を若い世代にもアピールする必要がある。それぞれの団地で独自の魅力を作る必要があるが転入してきた若い世代に自治会からのお祝い金を進呈するなど検討してはどうか。
・並木三丁目の課題
① バス路線が不便⇒横浜市道路局と相談し、バス路線の必要性について住民アンケートを実施したが、回答は 50%ほど。回答は 80%ほどの返答が必要とのこと。若者向けにアウトレットや南部市場に行く路線が出来ないか。
② 幸浦駅の階段 ⇒登れない高齢者が増えてきた。予算の都合がつきしだい、エレベーターを設置したいと聞いている。
③ 施設がない ⇒住民の集える場所がない。住民の人に相談し、活動場所を提供してもらい「まちなみサロン」を立ち上げた。

・金沢養護学校の生徒の描いたイラストを地福計画の冊子に載せていただけた。子どもたちにも大いに自信になり、シーサイドラインの掲示板にも貼ってもらえないか交渉中。
・金沢養護学校の教員が産休を取ることがある。地域に教員免許をお持ちの人がいたら紹介してほしい。

・海がきれいで住民が集えるふなだまりという地域の資産を大切にしたい。住民同士のつながり作りの一環で地区社協と一緒に親子でゴミ拾いを実施している。
・40 年前とふなだまりの水質が変化してきた。魚の死骸や水の色が赤いのが影響しているのか。対策を検討している。
・ウッドデッキの運営維持費が苦しいと聞いている。
・七夕まつりでは幼稚園児に短冊を書いてもらい、高齢者に折り鶴を折ってもらう。

・区内には災害ボランティアやアマチュア無線、国際交流ラウンジなど、発災時に活動する団体もある。それぞれ個別の活動ではなく、横の連携を踏まえた訓練が必要では。
・土地柄としては集合住宅もあれば戸建て住宅もある。防災訓練のメンバーの高齢化が進み、若手の人材をいかに引き込むかが今後の課題。

・外国人につながる児童が増えている。学習支援ボランティアなど必要であり、地域コーディネーターとも連携し、話し合いながら進めていきたい。

・高齢の方は SNS を利用しての情報発信できる人が少ない。「スマホ相談会」などを開催して教えられる人材を増やしていきたい。スマホを使える人が増えたら災害時等にも役立てることが出来る。
・自治会活動に参加する負担感が大きい。参加できる人が少ない中、今後は部分的にアウトソーシングを導入するなど検討できないか。仕事を抱えての地域活動は難しい。

お助け隊活動もメンバーの高齢化が進んでいる。買い物の付き添いや不自由な人の家の掃除など一丁目のニーズが多い。